

中学2年 かんたん国語マスター

月	章	内容	教科書	日付	点数	印刷	解答
4	1	未来へ	4	/	点	3	96
	2	手紙の効用	14～16	/	点	4	97
	3	短歌①②	18～25	/	点	5～6	98～99
5	4	話し言葉と書き言葉	26～27	/	点	7	100
	5	字のない葉書①②	30～34	/	点	8～9	101～102
	6	辞書に描かれたもの①②③	36～45	/	点	10～12	103～105
6	7	考えを比べながら聞こう	46～49	/	点	13	106
	8	敬語	50～51	/	点	14	107
	9	ハトはなぜ首を振って歩くのか①②③	55～63	/	点	15～17	108～110
7	10	郷土のよさを伝えよう	64～69	/	点	18	111
	11	卒業ホームラン①②③④	72～85	/	点	19～22	112～115
	12	黄金の扇風機・サハラ砂漠の茶会①②③	90～99	/	点	23～25	116～118
9	13	根拠を吟味して書こう	100～106	/	点	26	119
	14	説得力のある提案をしよう	107～112	/	点	27	120
	15	落葉松	116～118	/	点	28	121
10	16	枕草子・徒然草①②③④	120～127	/	点	29～32	122～125
	17	平家物語①②③	128～141	/	点	33～35	126～128
	18	漢詩①②③	142～145	/	点	36～38	129～131
11	19	依頼状やお礼状を書こう	146～148	/	点	39	132
	20	走れメロス①②③④	152～170	/	点	40～43	133～136
	21	類義語・対義語	172～173	/	点	44	137
12	22	鰹節(世界に誇る伝統食)①②③	174～179	/	点	45～47	138～140
	23	「正しい」言葉は信じられるか①②	184～191	/	点	48～49	141～142
	24	話し合いで問題を検討しよう	192～197	/	点	50	143
1	25	いきいきと描き出そう	198～205	/	点	51	144
	26	わたしが一番きれいだったとき	208～209	/	点	52	145
	27	坊ちゃん①②③	210～223	/	点	53～55	146～148
2	28	一年の文法(言葉の単位)(文の成分)	254～255	/	点	56～57	149～150
	29	用言の活用(動詞)(形容詞・形容動詞)	256～259	/	点	58～59	151～152
	30	助詞	260～261	/	点	60	153
	31	助動詞①②	262～265	/	点	61～62	154～155
3	32	カメレオン	270～275	/	点	63	156
	33	スズメは本当に減っているか①②	276～281	/	点	64～65	157～158
	34	書き手の肖像(清少納言)	290～292	/	点	66	159
	35	望郷の詩(杜甫と李白)	293～295	/	点	67	160
	36	古典芸能に親しもう	296～297	/	点	68	161

中学2年 かんたん国語マスター (漢字練習)

月	章	内容	日付			点数	印刷
4	1	手紙の効用/短歌/話し言葉と書き言葉	/	/	/	点	69
	2	形の似た漢字	/	/	/	点	70
5	3	字のない葉書	/	/	/	点	71
	4	辞書に描かれたもの	/	/	/	点	72
	5	辞書に描かれたもの	/	/	/	点	73
6	6	ハトはなぜ首を振って歩くのか/本文以外の漢字	/	/	/	点	74
	7	漢字の意味	/	/	/	点	75
7	8	卒業ホームラン	/	/	/	点	76
	9	卒業ホームラン	/	/	/	点	77
	10	卒業ホームラン/本文以外の漢字	/	/	/	点	78
	11	黄金の扇風機	/	/	/	点	79
	12	サハラ砂漠の茶会/本文以外の漢字	/	/	/	点	80
9	13	同訓異字	/	/	/	点	81
	14	同訓異字	/	/	/	点	82
10	15	枕草子・徒然草	/	/	/	点	83
	16	平家物語	/	/	/	点	84
	17	漢詩/本文以外の漢字	/	/	/	点	85
11	18	走れメロス	/	/	/	点	86
	19	走れメロス	/	/	/	点	87
	20	走れメロス	/	/	/	点	88
	21	走れメロス/類義語・対義語	/	/	/	点	89
12	22	鯉節	/	/	/	点	90
	23	鯉節/正しい言葉は信じられるか	/	/	/	点	91
	24	同音異義語	/	/	/	点	92
	25	同音異義語/本文以外の漢字	/	/	/	点	93
1	26	坊ちゃん	/	/	/	点	94
	27	坊ちゃん	/	/	/	点	95

このテキストの使い方

- ① 文を声に出して読んで、読み方を覚えます。
- ② 右の列をかくして、漢字の読み方を思い浮かべ、正解したら○、間違ったら×を、チェック欄に書きます。
(×になった漢字は、読み方をなぞって書きましょう。)
- ③ 三日後と七日後に、②をくり返します。
- ④ ③が終わったら、漢字をなぞって練習し、書き方を覚えます。
- ⑤ 左の列をかくして、空欄に漢字を書きます。
- ⑥ 1問5点で、合計80点以上で合格です。80点以下の場合は、もう一度挑戦しましょう。

8 敬語

教科書

50～51

点

敬語は、尊敬語・謙譲語・丁寧語に分類することができます。

尊敬語は、話し相手や話題になっている人を高めて表します。

- ① 「お」や「ご」を付ける言い方 「先生がお帰りになる。」 「ご入学おめでとうございます。」
- ② 「れる」「られる」をそえる言い方 「先生が本を読まれる。」 「お客様が食事を始められる。」
- ③ 特別な言葉を使う言い方 「先生のおっしゃることを聞く。」 「お客様がお食事を召しあがる。」

謙譲語は、自分側の動作や物事をへりくだって表します。

- ① 「お」や「ご」を付ける言い方 「私が荷物をお届けする。」 「お客様を会場までご案内する。」
- ② 特別な言葉を使う言い方 「招待券をいただく。」 「感謝の言葉を申しあげる。」 「代わりに兄が参ります。」

丁寧語は、ことから丁寧を表します。「お」や「ご」を付ける言い方を**美化語**、「です」や「ます」を使う言い方を**丁寧語**といいます。

- ① 「お」や「ご」を付ける言い方 「テーブルにおはしをならべる。」 「みんなでご飯を食べる。」
- ② 「です」「ます」を使う言い方 「発表会は、来週の土曜日です。」 「私は、毎朝六時に起きます。」

下線部の言葉が、尊敬語・謙譲語・丁寧語のどれなのかを書きましょう。(3点×20問=60点)

① 初めて <u>お目にかかる</u> 。	② どちらへ <u>お出かけ</u> になりますか。
③ この <u>お弁当</u> はおいしいです。	④ 自分のことを少し <u>お話しする</u> 。
⑤ <u>ご卒業</u> おめでとうございます。	⑥ <u>ご飯</u> の用意ができました。
⑦ お客様に遊び方を <u>ご説明する</u> 。	⑧ <u>ご心配</u> をおかけしました。
⑨ お客様がお茶を <u>飲まれる</u> 。	⑩ 玄関にお客様が <u>来られている</u> 。
⑪ 私は朝食にパンを <u>食べます</u> 。	⑫ これは彼が書いた本 <u>です</u> 。
⑬ 注文を <u>うけたまわる</u> 。	⑭ ぜひこちらに <u>いらしてください</u> 。
⑮ 明日、そちらへ <u>伺う</u> 。	⑯ その件なら <u>伺っている</u> 。
⑰ 気楽に <u>なさってください</u> 。	⑱ 彼のことは <u>存じあげている</u> 。
⑲ 片付けは私が <u>いたします</u> 。	⑳ こちらの本を <u>さし上げる</u> 。

下線部を指示された敬語表現に直すのに、正しいほうに○をしましょう。(3点×10問=30点)

① 先生は私の絵を <u>見た</u> 。(尊敬語) ご覧になった 拝見した	② 私は先生の絵を <u>見た</u> 。(謙譲語) ご覧になった 拝見した
③ 先生は弁当を <u>食べた</u> 。(尊敬語) いただいた 召し上がった	④ 私は弁当を <u>食べた</u> 。(謙譲語) いただいた 召し上がった
⑤ 先生は「お願いします」と <u>言った</u> 。(尊敬語) 申しあげた おっしゃった	⑥ 私は「お願いします」と <u>言った</u> 。(謙譲語) 申しあげた おっしゃった
⑦ 先生がこちらへ <u>来る</u> 。(尊敬語) いらっしゃる 参る	⑧ 私がこちらへ <u>行く</u> 。(謙譲語) いらっしゃる 参る
⑨ 先生は私に手紙を <u>くれた</u> 。(尊敬語) いただいた くださった	⑩ 私は先生から手紙を <u>もらった</u> 。(謙譲語) いただいた くださった

下線部に尊敬語が使われている文に○をしましょう。(2点×2問=4点)

① 妹は病気だけど <u>来られます</u> 。	そろそろ先生が <u>来られます</u> 。	兄は時間どおりに <u>来られます</u> 。
② 私はまだまだ <u>食べられます</u> 。	弟は納豆も <u>食べられます</u> 。	ここでお客様が <u>食べられます</u> 。

下線部を丁寧語にして、文を書き直しましょう。(3点×2問=6点)

① <u>金</u> は大切だ。	② 毎日、 <u>皿</u> を洗う。
------------------	---------------------

二月十八日の戦いを終えた日暮れ、平家は海上、源氏は陸上にいました。

扇をつけたさおを立てた小舟で平家が挑発したのに対し、源氏は、源義経の命令で那須与一が扇を射ることになりました。

文章を読んで、後の問いに答えましょう。(3点×10問=30点)

頃は二月十八日の **A** 西の刻ばかりのことなるに、

B 折節①北風激しくて、磯打つ波も高かりけり。

舟は揺り上げ **A** 揺りする、漂へば、

I 扇も串に定まらず **C** ひらめいたり。

②沖には平家、舟を一面に並べて見物す。

陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。



いづれもいづれも、③晴れならずといふことぞなき。

与一、目をふさいで、「南無八幡大菩薩、我が国の神明、

V 日光の権現、宇都宮、那須の湯泉大明神、

E 願はくはあの扇の真ん中 **D** 射させてたばせたまへ。

これを射損ずるものならば、弓切り折り自害して、

人に再び面を向かふべからず。

いま一度本国へ迎へんと④おぼしめさば、

⑤この矢外させたまふな。」と、心の内に祈念して、

⑥目を見開いたれば、風も少し吹き弱り、

扇も⑦射よげにぞなつたりける。

時は二月十八日の午後六時頃のことであったが、

おりから北風が激しくて、磯を打ちつける波も高かった。

舟は揺り上げられ、揺り落とされ、漂っているので、

扇も竿に定まらず、ひらひらしている。

沖では平家が、舟を一面に並べて見物する。

陸では源氏が、馬のくつわを並べて見守る。

どちらもどちらも、晴れ晴れしていないはずがない。

与一は目をふさいで、「南無八幡大菩薩、我が故郷の神々、

日光の権現、宇都宮の大明神、那須の湯泉大明神、

お願いですから、あの扇の真ん中を射させて下さい。

これを射損じたならば、弓を切り折って自害して、

人に再び顔を向けることはありません。

もう一度故郷へ迎えようとお思いになるならば、

この矢を外させないで下さい。」と、心の中で念じて、

目を見開くと、風も少し吹くのが弱まり、

扇も射やすそうになっていた。

① 線①の「北風激しくて、磯打つ波も高かりけり」は、読者にどのようなことを伝える働きをしていますか。

ア 扇が北風に揺れて美しく見えること。

イ 平家がわざと的を揺らしていること。

ウ 扇は的にするのに適していないこと。

エ 矢を射るときにねらいが定めにくいこと。

② 線②の「沖には平家～見物す。陸には源氏～これを見る。」で使われている表現技法はどれですか。

ア 倒置

イ 比喻

ウ 対句

エ 体言止め

③ 線③の「晴れならずといふことぞなき」では、晴れ晴れしているという意味ですか、晴れ晴れしていないという意味ですか。

④ 線④の「おぼしめさば」の主語に当たるものはどれですか。

ア 源氏の軍勢

イ 平家の軍勢

ウ 義経

エ 神々

⑤ 線⑤の「この矢外させたまふな」で省略されている助詞を補いましょう。

この矢()外させたまふな

⑥ 線⑥の「目を見開いたれば」の主語に当たる言葉を、古文中から抜き出しましょう。

⑦ 線⑦の「射よげにぞなつたりける」の「ぞ」と「ける」の関係を何といいますか。

の関係

⑧ 与一が命がけで矢を射ようとしていることが分かる一文を古文中から抜き出し、初めの五字を書きましょう。

⑨ **A** ~ **D** の意味を書きましょう。

A...

B...

C...

D...

⑩ **A** ~ **E** を現代仮名遣いに直し、全て **ひらがな** で書きましょう。

A...

I...

V...

E...

漢字ばかりで書かれた原文のままの漢文を「白文」といいます。
 漢文を読むための順番を表す記号を「返り点」といい、返り点に従って読む文を「訓読文」といいます。
 訓読文を仮名交じりで書き改めたものを、「書き下し文」といい、送り仮名は歴史的仮名遣いのまひらがなで書きます。
 レ点がある場合、後の一字からすぐ前の一字に返って読み、一二点がある場合、一を読んでから二に返って読みます。

返り点にしたがって読むときの順番を数字で書きましょう。(2点×12問=24点)

①	<input type="text"/> <input type="text"/> ↓ <input type="text"/> <input type="text"/> ↓ <input type="text"/> <input type="text"/>	②	<input type="text"/> ↓ <input type="text"/> <input type="text"/> ↓ <input type="text"/> <input type="text"/> ↓ <input type="text"/>
③	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> ↓ <input type="text"/> ↓ <input type="text"/> ↓ <input type="text"/>	④	<input type="text"/> ↓ <input type="text"/> ↓ <input type="text"/> <input type="text"/> ↓ <input type="text"/> ↓ <input type="text"/>
⑤	<input type="text"/> <input type="text"/> = <input type="text"/> <input type="text"/> - <input type="text"/> <input type="text"/>	⑥	<input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> = <input type="text"/> <input type="text"/> - <input type="text"/>
⑦	<input type="text"/> = <input type="text"/> <input type="text"/> = <input type="text"/> <input type="text"/> - <input type="text"/>	⑧	<input type="text"/> = <input type="text"/> <input type="text"/> - <input type="text"/> = <input type="text"/> <input type="text"/> -
⑨	<input type="text"/> = <input type="text"/> ↓ <input type="text"/> <input type="text"/> ↓ <input type="text"/> <input type="text"/> -	⑩	<input type="text"/> ↓ <input type="text"/> = <input type="text"/> ↓ <input type="text"/> <input type="text"/> - <input type="text"/>
⑪	<input type="text"/> <input type="text"/> = <input type="text"/> <input type="text"/> <input type="text"/> ↓ <input type="text"/>	⑫	<input type="text"/> = <input type="text"/> <input type="text"/> ↓ <input type="text"/> <input type="text"/> ↓ <input type="text"/>

絶句とは、四句からなる詩で、一句が五字の五言絶句と一句が七字の七言絶句があります。
 絶句は起承転結の構成になっていて、一句目が起句、二句目が承句、三句目が転句、四句目が結句です。
 五言絶句では二句目と四句目の最後の文字、七言絶句では一句目と二句目と四句目の最後の文字で韻を踏みます。
 律詩とは、八句からなる詩で、一句が五字の五言律詩と一句が七字の七言律詩があります。
 一・二句目、三・四句目、五・六句目、七・八句目がそれぞれ組になっていて、偶数の句の最後の文字で韻を踏みます。

次の漢詩について、後の問いに答えましょう。(4点×4問=16点)

A 床前看月光 疑是地上霜 举頭望山月 低头思故乡	B 渭城朝雨浥轻尘 客舍青青柳色新 劝君更尽一杯酒 西出阳关无故人	C 昔闻洞庭水 今上岳阳楼 吴楚东南坼 乾坤日夜浮 亲朋无一字 老病有孤舟 戎马关山北 凭轩涕泗流	D 消息寂寥三月餘 便风吹著一封書 西門樹被人移去 北地園教客寄居 紙裏生薑称藥種 竹籠昆布記齋儲 不言妻子飢寒苦 為是還愁懊惱余
------------------------------------	--	--	--

①	Aの漢詩の「形式」と「韻を踏んでいる文字」を答えましょう。 形式… 韻を踏んでいる文字…
②	Bの漢詩の「形式」と「韻を踏んでいる文字」を答えましょう。 形式… 韻を踏んでいる文字…
③	Cの漢詩の「形式」と「韻を踏んでいる文字」を答えましょう。 形式… 韻を踏んでいる文字…
④	Dの漢詩の「形式」と「韻を踏んでいる文字」を答えましょう。 形式… 韻を踏んでいる文字…

21 類義語・対義語

教科書
172 ~ 173

点

似た意味の語を類義語といいます。例) のぼる ⇨ あがる、形見 ⇨ 遺品

類義語はいつも置き換えられるとは限りません。例) ○展望台にのぼる → 展望台にあがる、×月がのぼる → 月があがる

類義語になるように、□に合う漢字を下から選んで書きましょう。(1点×20問=20点)

① 収入 ⇨ □ 得	② 大切 ⇨ □ 要	③ 値段 ⇨ □ 格	④ 長所 ⇨ □ 点	⑤ 体験 ⇨ □ 験
⑥ 原因 ⇨ □ 由	⑦ 自然 ⇨ □ 然	⑧ 著名 ⇨ □ 名	⑨ 厚意 ⇨ □ 切	⑩ 薄情 ⇨ □ 淡
⑪ 了解 ⇨ 納 □	⑫ 凶作 ⇨ 不 □	⑬ 使命 ⇨ 任 □	⑭ 落胆 ⇨ 絶 □	⑮ 進歩 ⇨ 発 □
⑯ 突然 ⇨ 不 □	⑰ 不平 ⇨ 不 □	⑱ 簡単 ⇨ 容 □	⑲ 勤勉 ⇨ 努 □	⑳ 返事 ⇨ 応 □
親 得 易 冷 力 答 有 意 満 重 美 経 理 天 展 務 所 価 作 望				

類義語を下から選び、漢字に直して書きましょう。(1点×20問=20点)

① 基本 ⇨ □	② 改良 ⇨ □	③ 永遠 ⇨ □	④ 消失 ⇨ □	⑤ 用意 ⇨ □					
⑥ 推量 ⇨ □	⑦ 限度 ⇨ □	⑧ 原料 ⇨ □	⑨ 儉約 ⇨ □	⑩ 地位 ⇨ □					
⑪ 一般 ⇨ □	⑫ 欠点 ⇨ □	⑬ 貧乏 ⇨ □	⑭ 手段 ⇨ □	⑮ 原因 ⇨ □					
⑯ 賛成 ⇨ □	⑰ 発達 ⇨ □	⑱ 負債 ⇨ □	⑲ 無事 ⇨ □	⑳ 重宝 ⇨ □					
すいそく	ざいりよう	ふつう	かいぜん	あんぜん	しんぽ	ひんこん	じゆんぴ	どうき	しょうめつ
どうい	きそ	べんり	ほうほう	たんじよ	げんかい	みぶん	えいきゆう	せつやく	しゃつきん

()に当てはまる言葉を後から一つ選んで書きましょう。両方入る場合は○を書きましょう。(3点×4問=12点)

① バスを()。	② ドアを()	③ 花が()。	④ 的を()。
高速道路を()。	本を()	穴を()。	優勝を()。
川を()。	ねじを()	窓を()。	山頂を()。
おりる くだる	とじる しめる	ひらく あける	ねらう めざす

反対の意味の語を対義語といいます。例) 以上 ⇨ 以下、長い ⇨ 短い

一つの語に複数の対義語がある場合があります。例) 現在 ⇨ 過去/未来、退社 ⇨ 入社/出勤

対義語になるように、□に合う漢字を下から選んで書きましょう。(1点×20問=20点)

① 赤字 ⇨ □ 字	② 陰性 ⇨ □ 性	③ 進化 ⇨ □ 化	④ 高温 ⇨ □ 温	⑤ 消極 ⇨ □ 極
⑥ 始業 ⇨ □ 業	⑦ 正常 ⇨ □ 常	⑧ 悪徳 ⇨ □ 徳	⑨ 主観 ⇨ □ 観	⑩ 返信 ⇨ □ 信
⑪ 拡大 ⇨ 縮 □	⑫ 義務 ⇨ 権 □	⑬ 団体 ⇨ 個 □	⑭ 原因 ⇨ 結 □	⑮ 自然 ⇨ 人 □
⑯ 許可 ⇨ 禁 □	⑰ 複雑 ⇨ 単 □	⑱ 現実 ⇨ 理 □	⑲ 具体 ⇨ 抽 □	⑳ 保守 ⇨ 革 □
往 純 黒 陽 積 異 工 象 客 小 人 利 美 果 低 終 止 新 想 退				

対義語を下から選び、漢字に直して書きましょう。(1点×20問=20点)

① 偶然 ⇨ □	② 需要 ⇨ □	③ 容易 ⇨ □	④ 生産 ⇨ □	⑤ 理性 ⇨ □					
⑥ 増加 ⇨ □	⑦ 直接 ⇨ □	⑧ 精神 ⇨ □	⑨ 短縮 ⇨ □	⑩ 運動 ⇨ □					
⑪ 浪費 ⇨ □	⑫ 原則 ⇨ □	⑬ 可決 ⇨ □	⑭ 復路 ⇨ □	⑮ 平凡 ⇨ □					
⑯ 損害 ⇨ □	⑰ 慎重 ⇨ □	⑱ 悪意 ⇨ □	⑲ 肯定 ⇨ □	⑳ 与党 ⇨ □					
かんじよう	せつやく	げんじよう	ひぼん	けいそつ	きようきゆう	おうろ	にくたい	ぜんい	れいがい
ひてい	せいし	ひつぜん	ひけつ	かんせつ	りえき	やどう	えんちよう	こんなん	しょうひ

下線部の対義語になるように、□に合う言葉を書きましょう。(2点×4問=8点)

① 値段が <u>たかい</u> ⇨ □	② 服を <u>ぬぐ</u> ⇨ □	③ 部屋が <u>あつい</u> ⇨ □	④ <u>やさしい</u> 問題 ⇨ □
背が <u>たかい</u> ⇨ □	靴を <u>ぬぐ</u> ⇨ □	辞書が <u>あつい</u> ⇨ □	<u>やさしい</u> 性格 ⇨ □

2 形の似た漢字

読み方を三回確認しよう

/

/

/

点

読み方を三回確認したら、漢字を書けるかテストしましょう。(5点×20問=100点)

てき 敵を <u>軽侮</u> する	てき 敵を <u>けいぶ</u> する	
ろうはいぶつ 老廃物の <u>排出</u>	ろうはいぶつ 老廃物の <u>はいしゅつ</u>	
かいがい 海外に <u>遠征</u> する	かいがい 海外に <u>えんせい</u> する	
ぐん 軍の <u>総帥</u>	ぐん 軍の <u>そうすい</u>	
<u>交渉</u> をかさねる	<u>こうしょう</u> をかさねる	
<u>准</u> きょうじゅ 教授になる	<u>じゅん</u> きょうじゅ 教授になる	
せいひん 製品の <u>排斥</u>	せいひん 製品の <u>はいせき</u>	
<u>折衷</u> あんだす 案を出す	<u>せつちゅう</u> あんだす 案を出す	
<u>禅寺</u> へ行く	<u>ぜんでら</u> へ行く	
へいえき 兵役を <u>忌避</u> する	へいえき 兵役を <u>きひ</u> する	
<u>名簿</u> をつくる	<u>めいぼ</u> をつくる	
やきゅうせんしゅ 野球選手の <u>年俸</u>	やきゅうせんしゅ 野球選手の <u>ねんぽう</u>	
<u>薬剤</u> あつか を扱う	<u>やくざい</u> あつか を扱う	
わか 和歌を <u>朗読</u> する	わか 和歌を <u>ろうどく</u> する	
ちほう 地方に <u>遷都</u> する	ちほう 地方に <u>せんと</u> する	
<u>手錠</u> をはずす	<u>てじょう</u> をはずす	
おう 王の <u>戴冠</u> しき	おう 王の <u>たいかん</u> しき	
こうじ 工事の <u>進捗</u>	こうじ 工事の <u>しんちよく</u>	
せつでん 節電を <u>奨励</u> する	せつでん 節電を <u>しょうれい</u> する	
まほうつか 魔法使いの <u>呪い</u>	まほうつか 魔法使いの <u>のろい</u>	

読み方を三回確認したら、漢字を書けるかテストしましょう。(5点×20問=100点)

<small>あつ</small> 熱い	<u>抱擁</u>	<small>あつ</small> 熱い	<u>ほうよう</u>
<small>ざいにん</small> 罪人を	<u>放免</u> する	<small>ざいにん</small> 罪人を	<u>ほうめん</u> する
	<u>寂しい</u> <small>まち</small>		<u>さびしい</u> <small>まち</small>
	<u>澄んだ</u> <small>くうき</small>		<u>すんだ</u> <small>くうき</small>
	<u>静寂</u> に <small>つま</small> まれる		<u>せいじやく</u> に <small>つま</small> まれる
	<u>拳</u> を <small>にぎ</small> りしめる		<u>こぶし</u> を <small>にぎ</small> りしめる
	<u>醜い</u> <small>こころ</small>		<u>みにくい</u> <small>こころ</small>
	<u>悦</u> に入 <small>かお</small> った顔		<u>えつ</u> に入 <small>かお</small> った顔
	<u>殴り</u> あ <small>あ</small> いをする		<u>なぐり</u> あ <small>あ</small> いをする
	<u>怪しい</u> <small>じんぶつ</small>		<u>あやしい</u> <small>じんぶつ</small>
<small>うみ</small> 海に	<u>潜る</u>	<small>うみ</small> 海に	<u>もぐる</u>
<small>きりよく</small> 気力が	<u>萎える</u>	<small>きりよく</small> 気力が	<u>なえる</u>
	<u>空虚</u> な <small>きもち</small>		<u>くうきよ</u> な <small>きもち</small>
	<u>孤独</u> な <small>じんせい</small>		<u>こどく</u> な <small>じんせい</small>
<small>さんちよう</small> 山頂を	<u>仰ぐ</u>	<small>さんちよう</small> 山頂を	<u>あおぐ</u>
	<u>疾風</u> に <small>けいそう</small> を知る		<u>しっふう</u> に <small>けいそう</small> を知る
<small>の</small> 乗り物に	<u>酔う</u>	<small>の</small> 乗り物に	<u>よう</u>
	<u>信仰</u> しんが <small>あつ</small> 篤い		<u>しんこう</u> しんが <small>あつ</small> 篤い
<small>どろ</small> 泥の	<u>塊</u>	<small>どろ</small> 泥の	<u>かたまり</u>
	<u>到着</u> が <small>おく</small> 遅れる		<u>とうちやく</u> が <small>おく</small> 遅れる

3 短歌①

教科書

18～25

点

短歌は、五・七・五・七・七の三十一音からなる定型詩で、基本の音数より多いものを字余り、少ないものを字足らずといいます。五(初句)・七(二句)・五(三句)・七(四句)・七(結句)のうち、初めの「五・七・五」を上の句、後の「七・七」を下の句と呼びます。歌の意味や調子の切れ目になるところを、句切れといい、初句切れ、二句切れ、三句切れ、四句切れ、句切れなしがあります。句切れは、意味的に分かれている箇所や、「や」「かな」「けり」「なり」「よ」「ぬ」などがつく箇所で見分けます。

短歌を読んで、後の問いに答えましょう。(3点×16問=48点)

A	<u>白鳥は 哀しからずや 空の青海のあをにも 染まずただよふ</u> 白鳥は哀しくないのだろうか、空の青色にも海の青色にも染まらずに漂っている。	若山牧水			
B	<u>みづからの 光のごとき 明るさを ささげて咲けり くれなるの 薔薇</u> 自らがもつ光のような明るさをささげながら咲いている、真紅の薔薇が。	佐藤佐太郎			
C	<u>金色の ちひさき鳥の かたちして 銀杏ちるなり 夕日の岡に</u> 金色の小さな鳥のように銀杏が散っている、夕日に照らされた岡に。	与謝野晶子			
D	<u>最上川の 上空にして 残れるは しまだうつくしき 虹の断片</u> 最上川の上の空に残っているのは、まだ美しい虹の断片だ。	斎藤茂吉			
E	<u>海を知らぬ 少女の前に 麦藁帽の われは両手を ひろげていたり</u> 海を見たことがない少女の前で、麦藁帽子をかぶった私は、両手をいっぱい広げている。	寺山修司			
F	<u>くれなるの 二尺伸びたる 薔薇の芽の 針やはらかに 春雨のふる</u> 赤色の二尺(約60cm)ほど伸びた薔薇の芽は、まだトゲもやわらかく、そこに春の雨が降っている。	正岡子規			
G	<u>不來方の お城の草に 寝ころびて 空に吸はれし 十五の心</u> 不來方城の城跡の草に寝ころんで、空に吸い込まれそうだった、十五才の心。	石川啄木			
H	<u>「寒いね」と 話しかければ 「寒いね」と 答える人の いるあたたかさ</u> 「寒いね」と話しかければ「寒いね」と返事してくれる人がいると、あたたかさを感じる。	俵万智			
I	<u>観覧車 回れよ回れ 想ひ出は 君には一日 我には一生</u> 観覧車よ、回り続けてくれ、あなたには一日の思い出でも、私には一生の思い出だ。	栗木京子			
①	Aは何句切れですか。	(二)句切れ			
②	Bは何句切れですか。	(四)句切れ			
③	Cは何句切れですか。	(四)句切れ			
④	Cで銀杏を鳥にたとえたような表現技法を何といいますか。	比喩			
⑤	Dで字余りの部分はどこですか。	(初)句と(四)句			
⑥	Dで「虹の断片」はどこに残っていますか。	最上川の上空			
⑦	Eで字余りの部分はどこですか。	(初)句と(三)句			
⑧	Eで両手をひろげて何を少女に伝えようとしていますか。	(自分が見てきた)海の大きさ			
⑨	Fで多く用いられ柔らかな印象を与える文字は何ですか。	(の)			
⑩	Fの「やはらかに」は何を表していますか。	(薔薇のトゲ)と(春雨)			
⑪	Gで用いられている表現技法を一つ選びましょう。	倒置	反復	対句	体言止め
⑫	Gの「十五才の心」が表すものを一つ選びましょう。	無邪気さ	絶望感	あこがれ	対抗心
⑬	Hで用いられている表現技法を二つ選びましょう。	倒置	反復	対句	体言止め
⑭	Hで作者はどのようなことに「あたたかさ」を感じましたか。	[例]自分の言葉に答えてくれる人がいること。			
⑮	Iで対句として使われている語句は何ですか。	君…(我)、一日…(一生)			
⑯	短歌とは、どのような形式の詩ですか。	五七五七七の三十一音からなる定型詩			

8 敬語

教科書

50 ~ 51

点

敬語は、尊敬語・謙讓語・丁寧語に分類することができます。

尊敬語は、話し相手や話題になっている人を高めて表します。

- ① 「お」や「ご」を付ける言い方 「先生がお帰りになる。」「ご入学おめでとうございます。」
- ② 「れる」「られる」をそえる言い方 「先生が本を読まれる。」「お客様が食事を始められる。」
- ③ 特別な言葉を使う言い方 「先生のおっしゃることを聞く。」「お客様がお食事を召しあがる。」

謙讓語は、自分側の動作や物事をへりくだって表します。

- ① 「お」や「ご」を付ける言い方 「私が荷物をお届けする。」「お客様を会場までご案内する。」
- ② 特別な言葉を使う言い方 「招待券をいただく。」「感謝の言葉を申しあげる。」「代わりに兄が参ります。」

丁寧語は、ことから丁寧を表します。「お」や「ご」を付ける言い方を**美化語**、「です」や「ます」を使う言い方を**丁寧語**といいます。

- ① 「お」や「ご」を付ける言い方 「テーブルにおはしをならべる。」「みんなでご飯を食べる。」
- ② 「です」「ます」を使う言い方 「発表会は、来週の土曜日です。」「私は、毎朝六時に起きます。」

下線部の言葉が、尊敬語・謙讓語・丁寧語のどれなのかを書きましょう。(3点×20問=60点)

① 初めて <u>お目にかかる</u> 。	謙讓語	② どちらへ <u>お出かけ</u> になりますか。	尊敬語
③ この <u>お弁当</u> はおいしいです。	丁寧語	④ 自分のことを少し <u>お話しする</u> 。	謙讓語
⑤ <u>ご卒業</u> おめでとうございます。	尊敬語	⑥ <u>ご飯</u> の用意ができました。	丁寧語
⑦ お客様に遊び方を <u>ご説明する</u> 。	謙讓語	⑧ <u>ご心配</u> をおかけしました。	尊敬語
⑨ お客様がお茶を <u>飲まれる</u> 。	尊敬語	⑩ 玄関にお客様が <u>来られている</u> 。	尊敬語
⑪ 私は朝食にパンを <u>食べます</u> 。	丁寧語	⑫ これは彼が書いた本 <u>です</u> 。	丁寧語
⑬ 注文を <u>うけたまわる</u> 。	謙讓語	⑭ ぜひこちらに <u>いらしてください</u> 。	尊敬語
⑮ 明日、そちらへ <u>伺う</u> 。	謙讓語	⑯ その件なら <u>伺っている</u> 。	謙讓語
⑰ 気楽に <u>なさってください</u> 。	尊敬語	⑱ 彼のことは <u>存じあげている</u> 。	謙讓語
⑲ 片付けは私が <u>いたします</u> 。	謙讓語	⑳ こちらの本を <u>さし上げる</u> 。	謙讓語

下線部を指示された敬語表現に直すのに、正しいほうに○をしましょう。(3点×10問=30点)

① 先生は私の絵を <u>見た</u> 。(尊敬語) ご覧になった 拝見した	② 私は先生の絵を <u>見た</u> 。(謙讓語) ご覧になった 拝見した
③ 先生は弁当を <u>食べた</u> 。(尊敬語) いただいた 召し上がった	④ 私は弁当を <u>食べた</u> 。(謙讓語) いただいた 召し上がった
⑤ 先生は「お願いします」と <u>言った</u> 。(尊敬語) 申しあげた おっしゃった	⑥ 私は「お願いします」と <u>言った</u> 。(謙讓語) 申しあげた おっしゃった
⑦ 先生がこちらへ <u>来る</u> 。(尊敬語) いらっしゃる 参る	⑧ 私がこちらへ <u>行く</u> 。(謙讓語) いらっしゃる 参る
⑨ 先生は私に手紙を <u>くれた</u> 。(尊敬語) いただいた くださった	⑩ 私は先生から手紙を <u>もらった</u> 。(謙讓語) いただいた くださった

下線部に尊敬語が使われている文に○をしましょう。(2点×2問=4点)

① 妹は病気だけど <u>来られます</u> 。	そろそろ先生が <u>来られます</u> 。	兄は時間どおりに <u>来られます</u> 。
② 私はまだまだ <u>食べられます</u> 。	弟は納豆も <u>食べられます</u> 。	ここでお客様が <u>食べられます</u> 。

下線部を丁寧語にして、文を書き直しましょう。(3点×2問=6点)

① <u>金</u> は大切だ。 お金大切です。	② 毎日、 <u>皿</u> を洗う。 毎日、お皿を洗います。
-----------------------------	------------------------------------

二月十八日の戦いを終えた日暮れ、平家は海上、源氏は陸上にいました。

扇をつけたさおを立てた小舟で平家が挑発したのに対し、源氏は、源義経の命令で那須与一が扇を射ることになりました。

文章を読んで、後の問いに答えましょう。(3点×10問=30点)

頃は二月十八日の **A** 西の刻ばかりのことなるに、

B 折節①北風激しくて、磯打つ波も高かりけり。

舟は揺り上げ **A** 揺りすゑ、漂へば、

I 扇も串に定まらず **C** ひらめいたり。

②沖には平家、舟を一面に並べて見物す。

陸には源氏、くつばみを並べてこれを見る。



いづれもいづれも、③晴れならずといふことぞなき。

与一、目をふさいで、「南無八幡大菩薩、我が国の神明、

V 日光の権現、宇都宮、那須の湯泉大明神、

E 願はくはあの扇の真ん中 **D** 射させてたばせたまへ。

これを射損ずるものならば、弓切り折り自害して、

人に再び面を向かふべからず。

いま一度本国へ迎へんと④おぼしめさば、

⑤この矢外させたまふな。」と、心の内に祈念して、

⑥目を見開いたれば、風も少し吹き弱り、

扇も⑦射よげにぞなつたりける。

時は二月十八日の午後六時頃のことであつたが、

おりから北風が激しくて、磯を打ちつける波も高かつた。

舟は揺り上げられ、揺り落とされ、漂っているので、

扇も竿に定まらず、ひらひらしている。

沖では平家が、舟を一面に並べて見物する。

陸では源氏が、馬のくつわを並べて見守る。

どちらもどちらも、晴れ晴れしていないはずがない。

与一は目をふさいで、「南無八幡大菩薩、我が故郷の神々、

日光の権現、宇都宮の大明神、那須の湯泉大明神、

お願いですから、あの扇の真ん中を射させて下さい。

これを射損じたならば、弓を切り折って自害して、

人に再び顔を向けることはありません。

もう一度故郷へ迎えようとお思いになるならば、

この矢を外させないで下さい。」と、心の中で念じて、

目を見開くと、風も少し吹くのが弱まり、

扇も射やすそうになっていた。

① 線①の「北風激しくて、磯打つ波も高かりけり」は、読者にどのようなことを伝える働きをしていますか。

ア 扇が北風に揺れて美しく見えること。

イ 平家がわざと的を揺らしていること。

ウ 扇は的にするのに適していないこと。

E 矢を射るときにねらいが定めにくいこと。

② 線②の「沖には平家～見物す。陸には源氏～これを見る。」で使われている表現技法はどれですか。

ア 倒置

イ 比喻

ウ 対句

エ 体言止め

③ 線③の「晴れならずといふことぞなき」では、晴れ晴れしているという意味ですか、晴れ晴れしていないという意味ですか。

晴れ晴れしている

④ 線④の「おぼしめさば」の主語に当たるものはどれですか。

ア 源氏の軍勢

イ 平家の軍勢

ウ 義経

E 神々

⑤ 線⑤の「この矢外させたまふな」で省略されている助詞を補いましょう。

この矢(を)外させたまふな

⑥ 線⑥の「目を見開いたれば」の主語に当たる言葉を、古文中から抜き出しましょう。

与一

⑦ 線⑦の「射よげにぞなつたりける」の「ぞ」と「ける」の関係を何といいますか。

係り結びの関係

⑧ 与一が命がけで矢を射ようとしていることが分かる一文を古文中から抜き出し、初めの五字を書きましょう。

これを射損

⑨ **A**～**D**の意味を書きましょう。

A…午後六時頃

B…おりから

C…ひらひらしている

D…射させて下さい

⑩ **A**～**E**を現代仮名遣いに直し、全てひらがなで書きましょう。

A…ゆりすえ

I…おうぎ

V…につこう

E…ねがわくは

漢字ばかりで書かれた原文のままの漢文を「白文」といいます。
 漢文を読むための順番を表す記号を「返り点」といい、返り点に従って読む文を「訓読文」といいます。
 訓読文を仮名交じりで書き改めたものを、「書き下し文」といい、送り仮名は歴史的仮名遣いのまひらがなで書きます。
 レ点がある場合、後の一字からすぐ前の一字に返って読み、一二点がある場合、一を読んでから二に返って読みます。

返り点にしたがって読むときの順番を数字で書きましょう。(2点×12問=24点)

①	1 3 ↓ 2 5 ↓ 4 6	②	2 ↓ 1 4 ↓ 3 6 ↓ 5
③	1 2 6 ↓ 5 ↓ 4 ↓ 3	④	3 ↓ 2 ↓ 1 6 ↓ 5 ↓ 4
⑤	1 4 = 2 3 - 5 6	⑥	1 2 5 = 3 4 - 6
⑦	5 = 1 4 = 2 3 - 6	⑧	3 = 1 2 - 6 = 4 5 -
⑨	6 = 2 ↓ 1 4 ↓ 3 5 -	⑩	5 ↓ 4 = 2 ↓ 1 3 - 6
⑪	1 6 = 2 3 5 ↓ 4	⑫	6 = 1 3 ↓ 2 5 ↓ 4

絶句とは、四句からなる詩で、一句が五字の五言絶句と一句が七字の七言絶句があります。
 絶句は起承転結の構成になっていて、一句目が起句、二句目が承句、三句目が転句、四句目が結句です。
 五言絶句では二句目と四句目の最後の文字、七言絶句では一句目と二句目と四句目の最後の文字で韻を踏みます。
 律詩とは、八句からなる詩で、一句が五字の五言律詩と一句が七字の七言律詩があります。
 一・二句目、三・四句目、五・六句目、七・八句目がそれぞれ組になっていて、偶数の句の最後の文字で韻を踏みます。

次の漢詩について、後の問いに答えましょう。(4点×4問=16点)

A	床前看月光 疑是地上霜 举頭望山月 低头思故乡	B	渭城朝雨浥轻尘 客舍青青柳色新 劝君更尽一杯酒 西出阳关无故人	C	昔闻洞庭水 今上岳阳楼 吴楚东南坼 乾坤日夜浮 亲朋无一字 老病有孤舟 戎马关山北 凭轩涕泗流	D	消息寂寥三月餘 便风吹著一封書 西門樹被人移去 北地園教客寄居 紙裏生薑称藥種 竹籠昆布記齋儲 不言妻子飢寒苦 為是還愁懊惱余
---	----------------------------------	---	--	---	--	---	--

①	Aの漢詩の「形式」と「韻を踏んでいる文字」を答えましょう。 形式… <u>五言絶句</u> 韻を踏んでいる文字… <u>(光)、霜、郷</u> (二句目と四句目で韻を踏むが、他の句も踏まれることもある)
②	Bの漢詩の「形式」と「韻を踏んでいる文字」を答えましょう。 形式… <u>七言絶句</u> 韻を踏んでいる文字… <u>塵、新、人</u>
③	Cの漢詩の「形式」と「韻を踏んでいる文字」を答えましょう。 形式… <u>五言律詩</u> 韻を踏んでいる文字… <u>楼、浮、舟、流</u>
④	Dの漢詩の「形式」と「韻を踏んでいる文字」を答えましょう。 形式… <u>七言律詩</u> 韻を踏んでいる文字… <u>書、居、儲、余</u>

21 類義語・対義語

教科書
172～173

点

似た意味の語を類義語といいます。例) のぼる⇔あがる、形見⇔遺品

類義語はいつも置き換えられるとは限りません。例) ○展望台にのぼる→展望台にあがる、×月がのぼる→月があがる

類義語になるように、□に合う漢字を下から選んで書きましょう。(1点×20問=20点)

① 収入⇔所得	② 大切⇔重要	③ 値段⇔価格	④ 長所⇔美点	⑤ 体験⇔経験															
⑥ 原因⇔理由	⑦ 自然⇔天然	⑧ 著名⇔有名	⑨ 厚意⇔親切	⑩ 薄情⇔冷淡															
⑪ 了解⇔納得	⑫ 凶作⇔不作為	⑬ 使命⇔任務	⑭ 落胆⇔絶望	⑮ 進歩⇔発展															
⑯ 突然⇔不意	⑰ 不平⇔不満	⑱ 簡単⇔容易	⑲ 勤勉⇔努力	⑳ 返事⇔応答															
親	得	易	冷	力	答	有	意	満	重	美	經	理	天	展	務	所	価	作	望

類義語を下から選び、漢字に直して書きましょう。(1点×20問=20点)

① 基本⇔基礎	② 改良⇔改善	③ 永遠⇔永久	④ 消失⇔消滅	⑤ 用意⇔準備					
⑥ 推量⇔推測	⑦ 限度⇔限界	⑧ 原料⇔材料	⑨ 儉約⇔節約	⑩ 地位⇔身分					
⑪ 一般⇔普通	⑫ 欠点⇔短所	⑬ 貧乏⇔貧困	⑭ 手段⇔方法	⑮ 原因⇔動機					
⑯ 賛成⇔同意	⑰ 発達⇔進歩	⑱ 負債⇔借金	⑲ 無事⇔安全	⑳ 重宝⇔便利					
すいそく	ざいりよう	ふつう	かいぜん	あんぜん	しんぽ	ひんこん	じゆんぴ	どうき	しやうめつ
どうい	きそ	べんり	ほうほう	たんしよ	げんかい	みぶん	えいきゆう	せつやく	しやつきん

()に当てはまる言葉を後から一つ選んで書きましょう。両方入る場合は○を書きましょう。(3点×4問=12点)

① バスを(おきる)。 高速道路を(○)。 川を(くだる)。 おきる くだる	② ドアを(○)。 本を(とじる)。 ねじを(しめる)。 とじる しめる	③ 花が(ひらく)。 穴を(あける)。 窓を(○)。 ひらく あける	④ 的を(ねらう)。 優勝を(○)。 山頂を(めざす)。 ねらう めざす
---	---	---	---

反対の意味の語を対義語といいます。例) 以上⇔以下、長い⇔短い

一つの語に複数の対義語がある場合があります。例) 現在⇔過去/未来、退社⇔入社/出勤

対義語になるように、□に合う漢字を下から選んで書きましょう。(1点×20問=20点)

① 赤字⇔黒字	② 陰性⇔陽性	③ 進化⇔退化	④ 高温⇔低温	⑤ 消極⇔積極															
⑥ 始業⇔終業	⑦ 正常⇔異常	⑧ 悪徳⇔美德	⑨ 主観⇔客観	⑩ 返信⇔往信															
⑪ 拡大⇔縮小	⑫ 義務⇔権利	⑬ 団体⇔個人	⑭ 原因⇔結果	⑮ 自然⇔人工															
⑯ 許可⇔禁止	⑰ 複雑⇔単純	⑱ 現実⇔理想	⑲ 具体⇔抽象	⑳ 保守⇔革新															
往	純	黒	陽	積	異	工	象	客	小	人	利	美	果	低	終	止	新	想	退

対義語を下から選び、漢字に直して書きましょう。(1点×20問=20点)

① 偶然⇔必然	② 需要⇔供給	③ 容易⇔困難	④ 生産⇔消費	⑤ 理性⇔感情					
⑥ 増加⇔減少	⑦ 直接⇔間接	⑧ 精神⇔肉体	⑨ 短縮⇔延長	⑩ 運動⇔静止					
⑪ 浪費⇔節約	⑫ 原則⇔例外	⑬ 可決⇔否決	⑭ 復路⇔往路	⑮ 平凡⇔非凡					
⑯ 損害⇔利益	⑰ 慎重⇔軽率	⑱ 悪意⇔善意	⑲ 肯定⇔否定	⑳ 与党⇔野党					
かんじよう	せつやく	げんしよう	ひぼん	けいそつ	きようきゆう	おうろ	にくたい	ぜんい	れいがい
ひてい	せいし	ひつぜん	ひけつ	かんせつ	りえき	やどう	えんちよう	こんなん	しやうひ

下線部の対義語になるように、□に合う言葉を書きましょう。(2点×4問=8点)

① 値段がたかい⇔安い 背がたかい⇔低い	② 服をぬぐ⇔着る 靴をぬぐ⇔履く	③ 部屋があつい⇔寒い 辞書があつい⇔薄い	④ やさしい問題⇔難しい やさしい性格⇔厳しい
-------------------------	----------------------	--------------------------	----------------------------

29 用言の活用(動詞)

教科書
256 ~ 259

点

後に続く語によって、単語の語尾が変化することを**活用**といい、活用によって語が変化した形を**活用形**といいます。
 動詞の活用は、**未然形**(…ない)、**連用形**(…ます)、**終止形**(…。)、**連体形**(…とき)、**仮定形**(…ば)、**命令形**(…！)があります。

五段活用 …「ない」をつけると直前の音がア段になる。例) 書(か)ない(き)ます(く。)(く)とき(け)ば(け)！
上一段活用 …「ない」をつけると直前の音がイ段になる。例) 見(み)ない(み)ます(みる。)(みる)とき(みれば)(みろ！)
下一段活用 …「ない」をつけると直前の音がエ段になる。例) 出(で)ない(で)ます(でる。)(でる)とき(でれば)(でろ！)
カ行変格活用 …「来る」だけの特殊な活用。例) 来(こ)ない(き)ます(くる。)(くる)とき(くれば)(こい！)
サ行変格活用 …「する(ずる)」がつく語だけの特殊な活用。例) 勉強(し)ない(し)ます(する。)(する)とき(すれば)(しろ！)

空欄に活用語尾を入れて、五段活用の動詞の活用表を完成しましょう。(2点×4問=8点)

	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	活用の種類
①	書く	か	か	き	く	く	け	け	五段活用
②	読む	よ	ま	み	む	む	め	め	五段活用
③	話す	はな	さ	し	す	す	せ	せ	五段活用
④	歩く	ある	か	き	く	く	け	け	五段活用

空欄に活用語尾を入れて、上一段活用の動詞の活用表を完成しましょう。(2点×4問=8点)

	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	活用の種類
①	見る	(み)	み	み	みる	みる	みれ	みろ	上一段活用
②	煮る	(に)	に	に	にる	にる	にれ	にろ	上一段活用
③	伸びる	の	び	び	びる	びる	びれ	びろ	上一段活用
④	落ちる	お	ち	ち	ちる	ちる	ちれ	ちろ	上一段活用

空欄に活用語尾を入れて、下一段活用の動詞の活用表を完成しましょう。(2点×4問=8点)

	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	活用の種類
①	出る	(で)	で	で	でる	でる	でれ	でろ	下一段活用
②	寝る	(ね)	ね	ね	ねる	ねる	ねれ	ねろ	下一段活用
③	染める	そ	め	め	める	める	めれ	めろ	下一段活用
④	重ねる	かさ	ね	ね	ねる	ねる	ねれ	ねろ	下一段活用

空欄に活用語尾を入れて、サ行変格活用の動詞の活用表を完成しましょう。(2点×4問=8点)

	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	活用の種類
①	する	(する)	し	し	する	する	すれ	しろ	サ行変格活用
②	察する	さつ	し	し	する	する	すれ	しろ	サ行変格活用
③	勉強する	べんきょう	し	し	する	する	すれ	しろ	サ行変格活用
④	論ずる	ろん	じ	じ	ずる	ずる	ずれ	じろ	サ行変格活用

空欄に語幹・活用語尾・活用の種類を入れて、動詞の活用表を完成しましょう。(2点×6問=12点)

	基本形	語幹	未然形	連用形	終止形	連体形	仮定形	命令形	活用の種類
①	着く	つ	か	き	く	く	け	け	五段活用
②	起きる	お	き	き	きる	きる	きれ	きろ	上一段活用
③	来る	(くる)	こ	き	くる	くる	くれ	こい	カ行変格活用
④	教える	おし	え	え	える	える	えれ	えろ	下一段活用
⑤	走る	はし	ら	り	る	る	れば	れ	五段活用
⑥	練習する	れんしゅう	し	し	する	する	すれ	しろ	サ行変格活用

